

# トカラ列島の口之島と中之島のバッタ，ナナフシ，ゴキブリ，ハサミムシの記録

小浜 継雄<sup>1</sup>・立田 晴記<sup>2</sup>

Records of Orthoptera, Phasmatodea, Blattodea and Dermaptera from Kuchinoshima Is. and Nakanoshima Is., the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan

Tsuguo KOHAMA<sup>1</sup> and Haruki TATSUTA<sup>2</sup>

キーワード：直翅系昆虫，リュウキュウゴキブリ，オガサワラゴキブリ，琉球列島

## はじめに

トカラ列島のバッタ目については，山下（1981），直翅類研究グループ（1983），河北・秋田（1987），河北・今村（1987），畑田（1989），黒江（1994），江平（1995，1996），廣森（1999，2000，2001），廣森・山下（2001），中峯（2005ab，2008），金井・守山（2012，2013，2014，2018），山下（2013a），守山・金井（2015，2016，2017），小浜・立田（2018），山下ら（2019）などの報告があり，これまでに86種記録されている。そのうち口之島から29種，中之島から65種記録されている。ナナフシ目については，河北・今村（1987），中峯（2005a），山下（2013d），小浜・立田（2018），山下ら（2019）の報告があり，トカラ列島から4種記録され，そのうち口之島から3種，中之島から4種記録されている。ゴキブリ目については，嶋ら（1965），八田・佐藤（1971），朝比奈（1985），廣森・山下（2001），中峯（2005a），山下（2013b），小浜・立田（2018），山下ら（2019）などの報告があり，トカラ列島から19種知られ，そのうち口之島から6種，中之島から13種記録されている。また，ハサミムシ目については廣森・山下（2001），山下（2013c），山下ら（2019）などの報告があり，トカラ列島から10種記録されており，そのうち口之島から6種，中之島から7種記録されている。中之島に比べて，口之島の直翅系昆虫相－特にバッタ目－はあまり解明されていないと推定される。筆者らは2018年7月に口之島と中之島で直翅系昆虫の分布調査を行い，両島において，新記録9種を含む，バッタ目17種，ナナフシ目2種，ゴキブリ目3

種，ハサミムシ目2種の合計24種を採集したので報告する。

## 1 調査方法

2018年9月16日から9月17日に口之島で，9月18日から9月19日に中之島で直翅系昆虫の分布調査を行った。目視により直翅系昆虫を探索し捕虫網で捕獲，草木のスピーニングも行った。夜間は懐中電灯を用いて調査した。*Entoria*属ナナフシの幼虫は成虫を得るため，持ち帰って飼育した。

直翅系昆虫の科名，種名については，主に日本直翅類学会（2016）に従っているが，ナナフシ目とゴキブリ目については山崎（2008）及びSeow-Choen（2016，2017）も参考にした。トカラ列島の各島における直翅系昆虫の分布情報は，バッタ目については屋富祖ら（2002）及び日本直翅類学会（2006），ナナフシ目は岡田（1999），市川（2014）及び日本直翅類学会（2016），ゴキブリ目とハサミムシ目は屋富祖ら（2002）及び日本直翅類学会（2016）を参考にした。

なお，本調査で採集した標本（全て乾燥標本）は，琉球大学博物館（風樹館）に保管されている。

## 2 調査結果－採集標本リスト

採集標本データは，島名，採集地，採集個体数，採集日，採集者の順に示した。採集者名は，小浜継雄を（K），立田晴記を（T）と略記した。

1 琉球大学博物館 2 琉球大学農学部

## I バッタ目 Orthoptera

### マツムシ科 Eneopteridae

- 1) マツムシ *Xenogryllus marmoratus* (de Haan, 1844)  
口之島：口之島集落, 1♂, 16. IX. 2018 (K)  
口之島集落近くの高台の丈の高い、乾いた草地で多数の鳴き声を聴いた。鳴き方は「ピッ・ピッ・ピリリ」で本土産のマツムシと同様の鳴き方であった。  
口之島新記録。トカラ列島では宝島から記録がある（日本直翅類学会, 2006）。

### ヒバリモドキ科 Trigonidiidae

- 2) クサヒバリ *Svistella bifasciata* (Shiraki, 1913)  
口之島：岩戸口, 1♂, 17. IX. 2018 (K)  
口之島新記録。トカラ列島においては中之島から記録がある（廣森・山下, 2001；日本直翅類学会, 2006）。
- 3) クロヒバリモドキ  
*Trigonidium cicindeloides* Rambur, 1839  
口之島：前之浜, 3♂1♀, 17. IX. 2018 (K)  
口之島から中峯（2005b）の記録がある。トカラ列島においては他に中之島と平島から記録がある（廣森・山下, 2001；日本直翅類学会, 2006；山下ら, 2019）。

### カネタタキ科 Mogoplistidae

- 4) イソカネタタキ  
*Ornebius bimaculatus* (Shiraki, 1930)  
口之島：岩戸口, 1♂, 17. IX. 2018 (K)；前之浜, 1♀, 17. IX. 2018 (K)  
中之島：東区, 2♀, 18. IX. 2018 (K)  
口之島新記録。トカラ列島では中之島（廣森・山下, 2001；日本直翅類学会, 2006；山下ら, 2019）と諏訪之瀬島（守山・金井, 2016）から記録がある。
- 5) フトアシジマカネタタキ *Ectatoderus* sp.  
中之島：東区, 2幼虫（♂♀）, 18. IX. 2018 (K)  
トカラ列島においては、中之島、悪石島及び宝島から記録されている（日本直翅類学会, 2006）。

### キリギリス科 Tettigoniidae

- 6) オガサワラクビキリギス  
*Euconocephalus nasutus* (Thunberg, 1815)  
口之島：前之浜, 1♂, 17. IX. 2018 (K)  
口之島初記録。トカラ列島においては中之島と宝島から記録されている（山下, 2013a）。

### 7) ホシササキリ

*Conocephalus maculatus* (le Guillou, 1841)

- 口之島：戸尻, 1♀, 16. IX. 2018 (K)；前之浜, 1♀, 17. IX. 2018 (K)  
中之島：東区, 1幼虫(♀), 18. IX. 2018 (K)  
口之島新記録。トカラ列島においては中之島、平島、諏訪之瀬島及び宝島から記録されている（河北・秋田, 1987；廣森・山下, 2001；屋富祖ら, 2002；中峯, 2005a；日本直翅類学会, 2006）

### クツワムシ科 Mecopodidae

#### 8) タイワンクツワムシ

*Mecopoda elongata* (Linnaeus, 1758)

- 口之島：口之島集落, 1♂1♀, 16. IX. 2018 (K)；1♂, 16. IX. 2018 (T)  
夜間の調査で、多数の個体を確認した。トカラ列島においては口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島及び宝島から記録されている（直翅類研究グループ, 1983；河北・秋田, 1987；廣森・山下, 2001；屋富祖ら, 2002；日本直翅類学会, 2006；山下, 2013a；小浜・立田, 2018）。

### ツユムシ科 Mecopodidae

#### 9) ヒメクダマキモドキ

*Phaulula macilenta* Ichikawa, 2004

- 口之島：口之島集落, 1♀, 16. IX. 2018 (K)  
トカラ列島においては口之島、中之島、諏訪之瀬島、悪石島、宝島及び臥蛇島から記録されている（廣森, 1999；廣森・山下, 2001；屋富祖ら, 2002；中峯, 2005a；日本直翅類学会, 2006；金井・守山, 2012；守山・金井, 2015, 2017；小浜・立田, 2018）。

### オンブバッタ科 Pyrgomorphidae

#### 10) オンブバッタ

*Atractomorpha lata* (Motschoulsky, 1866)

- 口之島：戸尻, 1♂1♀, 16. IX. 2018 (K)；岩戸口, 1♂1♀, 17. IX. 2018 (K)  
中之島：池原, 1♂1♀, 18. IX. 2018 (K)  
トカラ列島においては口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島及び横当島から記録されている（廣森・山下, 2001；屋富祖ら, 2002；日本直翅類学会, 2006；中峯, 2008；金井・守山, 2012；守山・金井, 2015, 2016；山下ら, 2019）。

バッタ科 **Acrididae**

11) アマミフキバッタ

*Sinopodisma punctata* Mistshenko, 1954

口之島：口之島集落, 1♂, 16. IX. 2018 (T)

トカラ列島においては口之島, 中之島, 小宝島, 宝島及びに臥蛇島から記録がある (廣森・山下, 2001; 中峯, 2005a; 日本直翅類学会, 2006; 小浜・立田, 2018)。

12) ツチイナゴ *Patanga japonica* (Bolivar, 1898)

口之島：口之島集落, 1♀, 16. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては口之島, 中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 小宝島及び宝島から記録されている (直翅類研究グループ, 1983; 廣森・山下, 2001; 屋富祖ら, 2002; 中峯, 2005ab; 日本直翅類学会, 2006; 守山・金井, 2017; 金井・守山, 2018; 小浜・立田, 2018)。

13) タイワンハネナガイナゴ

*Oxya chinensis* (Thunberg, 1824)

口之島：口之島集落, 1♀, 16. IX. 2018 (K); 戸尻, 1♀, 16. IX. 2018 (K); 西の浜, 1♂1♀, 17. IX. 2018 (K)

中之島：東区, 1♂, 18. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては口之島, 中之島, 平島, 悪石島, 小宝島及び宝島から記録されている (河北・秋田, 1987; 畑田, 1989; 屋富祖ら, 2002; 中峯, 2005b; 日本直翅類学会, 2006; 山下, 2013a; 金井・守山, 2014; 守山・金井, 2016; 山下ら, 2019)。

14) ショウリョウバッタ

*Acrida cinerea* (Thunberg, 1815)

口之島：前之浜, 1♂2♀, 17. IX. 2018 (K); 西の浜, 1♂, 17. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては多くの報告があり, 口之島, 中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 小宝島及び宝島から記録されている (直翅類研究グループ, 1983; 廣森, 2001; 廣森・山下, 2001; 屋富祖ら, 2002; 日本直翅類学会, 2006; 中峯, 2008; 山下, 2013a; 守山・金井, 2015, 2016, 2017; 金井・守山, 2018; 小浜・立田, 2018; 山下ら, 2019)。

15) ショウリョウバッタモドキ

*Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

口之島：西の浜, 4♂1♀, 17. IX. 2018 (K)

口之島新記録。トカラ列島においては中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島及び宝島から記録されている (屋富祖ら, 2002; 日本直翅類学会,

2006; 山下ら, 2019)。

16) マダラバッタ

*Aiolopus thalassinus tamulus* (Fabricius, 1798)

口之島：セランマ, 1♀, 16. IX. 2018 (K); 西の浜, 2♀, 16. IX. 2018 (K)

中之島：池原, 1♀, 18. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては口之島, 中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 小宝島及び宝島から記録されている (直翅類研究グループ, 1983; 河北・秋田, 1987; 河北・今村, 1987; 江平, 1996; 廣森, 1999; 廣森, 2001; 廣森・山下, 2001; 屋富祖ら, 2002; 中峯, 2005ab; 日本直翅類学会, 2006; 金井・守山, 2012; 守山・金井, 2015, 2016, 2017; 金井・守山, 2018; 小浜・立田, 2018; 山下ら, 2019)。

17) トノサマバッタ

*Locusta migratoria* (Linnaeus, 1758)

口之島：セランマ, 2♂, 16. IX. 2018 (K); 口之島集落, 1♀, 16. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては口之島, 中之島, 平島, 諏訪之瀬島, 悪石島, 小宝島及び横当島から記録されている (廣森, 1999; 廣森・山下, 2001; 屋富祖ら, 2002; 中峯, 2005b, 2008; 日本直翅類学会, 2006; 金井・守山, 2012, 2013; 守山・金井, 2015; 小浜・立田, 2018)。

## II. ナナフシ目 Phasmatodea

### フトナナフシ科 **Heteropterygidae**

18) コブナナフシ *Pyblaemenes japonicus* Ho, 2016

口之島：口之島集落, 1♂1♀1幼虫(♀), 16. IX. 2018 (K)

夜間, カラムシの葉上で見つかった。採集した雌雄は交尾ペアであった。

口之島から小浜・立田 (2018) が記録しており, 今回同島2回目の記録となる。トカラ列島においては他に中之島, 悪石島及び宝島から記録されている (河北・今村, 1987; 岡田, 1999; 屋富祖ら, 2002; 市川, 2014; 日本直翅類学会, 2016; 小浜・立田, 2018; 山下ら, 2019)。

### ナナフシ科 **Phasmatidae**

19) ハチジョウナナフシ *Entoria* sp.

口之島：口之島集落, 1幼虫(♂), 16. IX. 2018 (T) (2018年10月8日羽化); 1幼虫(♀), 16. IX. 2018 (K) (2018年10月21日羽化); 岩尾口, 1幼虫(♂), 17. IX. 2018 (K) (2018年11月10日羽化)

中之島：東区, 1♂, 18. IX. 2018 (T)

幼虫・成虫とも, 夜間, カラムシ上で見つかった。

口之島から2度目の記録である。トカラ列島においては他に中之島, 悪石島及び宝島から知られている (岡田, 1999; 屋富祖ら, 2002; 市川, 2014; 日本直翅類学会, 2016; 小浜・立田, 2018)。

### Ⅲ. ゴキブリ目 Blattodea

#### チャバネゴキブリ科 Ectobiidae

##### 20) チャバネゴキブリ

*Blattella germanica* (Linnaeus, 1767)

口之島：口之島集落, 1♀, 16. IX. 2018 (K)

口之島新記録。トカラ列島においては中之島, 諏訪之瀬島, 平島及び悪石島から記録がある (日本直翅類学会, 2016)。

#### ブラベルスゴキブリ科 Blaberidae

##### 21) リュウキュウゴキブリ

*Pycnoscelus indicus* (Fabricius, 1758) (図1)

中之島：東区, 1♂2♀, 18. IX. 2018 (K)

トカラ列島新記録。日本産のいわゆる「オガサワラゴキブリ」には, 単性生殖 (単為生殖) の個体群と, 両性生殖の個体群が存在する。前者はオガサワラゴキブリ *Pycnoscelus surinamensis* (Linnaeus, 1758) で, 後者はリュウキュウゴキブリ *Pycnoscelus indicus* (Fabricius, 1758) とされる (Roth, 1967; 石川, 2014; Komatsu et al. 2015; 日本直翅類学会, 2016; 小松・富岡, 2019)。今回, 中之島では雄が得られているので (日本直翅類学会, 2016), リュウキュウゴキブリと同定した (図1)。ただし, 雌については種を確定できないが, リュウキュウゴキブリと想定した。今後, DNAバーコーディング法による種の確定が必要である。

山下 (2013b) が中之島から記録したオガサワラゴキブリは雌雄が得られているので, 少なくとも雄はリュウキュウゴキブリと扱うのが妥当であろう。



図1 中之島産リュウキュウゴキブリ

左：♂ 右：♀

##### 22) サツマゴキブリ

*Opisthoptatia orientalis* (Burmeister, 1838)

口之島：口之島集落, 1♂, 16. IX. 2018 (K)

中之島：東区, 2♀, 18. IX. 2018 (K)

トカラ列島においては口之島, 中之島及び悪石島から記録がある (嶋ら, 1965; 朝比奈, 1991; 廣森・山下, 2001; 屋富祖ら, 2002; 中峰, 2005ab; 金井ら, 2013; 山下, 2013b; 小浜・立田, 2018; 山下ら, 2019)。

なお, 小浜・立田 (2018) は本種を口之島から初記録として報告したが, 既に中峯 (2005b) が報告していた。

### Ⅳ. ハサミムシ目 Dermaptera

#### ハサミムシ科 Anisolabididae

##### 23) ハマベハサミムシ

*Anisolabis maritima* (Bonelli, 1832)

中之島：東区, 1♀, 18. IX. 2018 (K)

トカラ列島から中之島, 諏訪之瀬島, 悪石島及び宝島から記録されている (山下, 2013c; 日本直翅類学会, 2016; 山下ら, 2019)。

#### オオハサミムシ科 Labiduridae

##### 24) オオハサミムシ *Labidura riparia* (Pallas, 1773)

中之島：東区, 1♂, 18. IX. 2018 (K); 東区, 1♀, 19. IX. 2018 (K)

中之島新記録。トカラ列島においてはほかに口之島と宝島から記録されている (山下, 2013c; 日本直翅類学会, 2016; 山下ら, 2019)。

### 3 考察

本調査により, 口之島からバッタ目16種 (そのうちマツムシ, クサヒバリ, イソカナタタキ, オガサワラクビキリギス, ホシササキリ及びショウリョウバッタモドキの6種は同島初記録), ナナフシ目2種, ゴキブリ目2種 (そのうちチャバネゴキブリは同島初記録) の合計20種を, 中之島からはバッタ目6種, ナナフシ目1種, ゴキブリ目2種 (そのうちリュウキュウゴキブリはトカラ列島初記録), ハサミムシ目2種 (そのうちオオハサミムシは同島初記録) の合計10種を採集した。トカラ列島からの初記録は, リュウキュウゴキブリのみであった。

トカラ列島の直翅系昆虫のうち, 比較的分布調査が進んでいると考えられるバッタ目についてみると, トカラ列島全体では, これまでに86種が記録されている。そのうち中之島から65種, 口之島から29

種がそれぞれ確認されていた。今回の調査結果により、新記録6種を加えると、口之島のバツタ類は35種になる。今後の調査の進展により口之島のバツタ目昆虫の種数はさらに増えると予想される。ナナフシ目は種数が少ないので、種数はあまり増えないと考えられるが、口之島でトビナナフシが、またトカラ列島から1～2種は追加される可能性がある。ゴキブリ目とハサミムシ目については、これまでの報告が少ないことから、今後の分布調査により種数が増えると予想される。

今回の調査結果で特筆されるのは、中之島からリュウキュウゴキブリ *P. indicus* が確認されたことである。いわゆるオガサワラゴキブリには単為生殖型と両性生殖型のあることが知られており、Roth (1967) は、前者を *P. surinamensis*、後者を *P. indicus* として区別した。Komatsu et al. (2015) は、小笠原諸島及び琉球列島の各地から得られた個体群について繁殖実験を行った結果、雌だけを産む個体群と雌雄をほぼ1:1で産む個体群があり、日本産のいわゆる「オガサワラゴキブリ」は2種存在することを明らかにした。単為生殖であれば、オガサワラゴキブリ *P. surinamensis*、両性生殖であれば、リュウキュウゴキブリ *P. indicus* とされる。小笠原諸島の父島や母島などにはオガサワラゴキブリが分布し、琉球列島の奄美大島や宮古島、石垣島にはリュウキュウゴキブリが分布する。そして、小笠原諸島の硫黄島、琉球列島の徳之島と沖縄島には両種が分布する。

トカラ列島において、過去に口之島、中之島、平島から「オガサワラゴキブリ」が報告されている(朝比奈, 1991; 屋富祖ら, 2002; 日本直翅類学会, 2016; 山下ら, 2019)。前述のように、従来、オガサワラゴキブリとよばれていた種は、2015年以前の記録では、2種のどちらかであるか不明である。雄であればリュウキュウゴキブリであるが、雌が得られている地域のもは、産仔実験により種を確認するしかない(日本直翅類学会, 2016)。最近、鹿児島県大隅半島からオガサワラゴキブリが記録されている(小松・富岡, 2019)。これは、野外から採集された複数の幼虫を飼育し、羽化成虫(全て雌)が産仔した個体の雌雄を判定した結果(全て雌)により、オガサワラゴキブリと同定したものである。

今回の調査結果から、口之島のバツタ目、口之島及び中之島のゴキブリ目とハサミムシ目については、継続的な分布調査によりそれぞれの島における種数が増えると予想される。トカラ列島において、各島にオガサワラゴキブリとリュウキュウゴキブリ

の2種とも生息しているのか、あるいは、どちらか1種が生息しているのか、今後の課題として興味深い。これら2種のゴキブリについて、トカラ列島全域、さらには九州本土も含めた地域における詳細な分布調査が待たれる。

## 謝辞

本調査は十島村役場の許可を得て実施した。役場の関係者にお礼を申し上げる。

## 引用文献

- 朝比奈正二郎 (1985) トカラ諸島のヒメマルゴキブリ. 月刊むし (178): 22-23.
- 朝比奈正二郎 (1991) 日本産ゴキブリ類, 253pp. 中山書店, 東京.
- 直翅類研究グループ (1983) 日本の直翅類. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第15集. 大阪市立自然史博物館. 101pp.
- 江平憲治 (1995) トカラ列島・宝島, 11月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告 (14): 43-49.
- 江平憲治 (1996) トカラ列島・中之島, 7月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告 (15): 53-60.
- 畑田健治 (1989) 鹿児島県のイナゴ属 (*Oxya*) の形態的特徴と分布 (第1報). 鹿児島県立博物館研究報告 (8): 11-16.
- 八田耕吉・佐藤正孝 (1971) 琉球列島及び台湾産ゴキブリ類の分布記録. 名古屋女子大学紀要 17:187-194.
- 廣森敏昭 (1999) 1998年10月口之島の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告 (18): 5-10.
- 廣森敏昭 (2000) 1999年11月, トカラ列島宝島の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告 (19): 53-60.
- 廣森敏昭 (2001) トカラ列島宝島・小宝島, 2000年6月の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告 (20): 49-54.
- 廣森敏昭・山下秋厚 (2001) 2000年10月, トカラ列島中之島の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告 (20): 55-66.
- 市川顕彦 (2014) 日本産ナナフシ目の新知見一付・日本産ナナフシ目カタログ. 月刊むし (523): 10-17.
- 石川均 (2014) 日本産オガサワラゴキブリの分類的扱い. 月刊むし (523): 25-27.
- 金井賢一・守山泰司 (2012) 2010年10月口之島・中之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (31): 67-72.

- 金井賢一・守山泰司 (2013) 2011年4月と10月の口之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (32): 11-16.
- 金井賢一・守山泰司 (2014) 2012年4月中之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (33): 27-31.
- 金井賢一・守山泰司 (2018) トカラ列島中之島・小宝島の昆虫 (2017年). 鹿児島県立博物館研究報告 (37): 15-18.
- 金井賢一・守山泰司・中村京平 (2013) 2011年10月悪石島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (32): 17-22.
- 河北均・秋田勝巳 (1987) トカラ列島の直翅目. 月刊むし (198): 33-36.
- 河北均・今村隆一 (1987) トカラ列島中之島における直翅目・ナナフシ目の記録. 月刊むし (202): 26.
- 小浜継雄・立田晴記 (2018) トカラ列島の口之島と宝島のバッタ, ナナフシ, ゴキブリの記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (37): 41-44.
- 小松謙之・富岡庸浩 (2019) 鹿児島県大隅半島で採集されたゴキブリ類-特にオガサワラゴキブリの記録. 月刊むし (584): 41-42.
- Komatsu, N., Kawakami, Y., Banzai, A., Ooi, H.K. & Uchida, A. (2015) Species clarification of Ogasawara cockroaches which inhabit Japan. *Tropical Biomedicine* 32: 98-108.
- 黒江修一 (1994) トカラ列島-宝島-の動物資料収集記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (13): 5-10.
- 守山泰司・金井賢一 (2015) トカラ列島口之島・中之島・平島の昆虫 (2014年). 鹿児島県立博物館研究報告 (34): 69-77.
- 守山泰司・金井賢一 (2016) トカラ列島口之島, 中之島, 諏訪之瀬島の昆虫 (2015). 鹿児島県立博物館研究報告 (35): 57-66.
- 守山泰司・金井賢一 (2017) トカラ列島口之島, 諏訪之瀬島, 平島, 小宝島, 宝島の昆虫 (2016年). 鹿児島県立博物館研究報告 (36): 1-13.
- 中峯浩司 (2005a) トカラ列島中之島2003年6月の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告 (24): 28-45.
- 中峯浩司 (2005b) トカラ列島口之島2004年3月の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告 (24): 46-51.
- 中峯浩司 (2008) トカラ列島平島及び中之島の昆虫 (2007年秋). 鹿児島県立博物館研究報告 (27): 83-92.
- 日本直翅類学会編 (2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 687pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- 日本直翅類学会編 (2016) 日本産直翅類標準図鑑, 384pp. 学研プラス, 東京.
- 岡田正哉 (1999) ナナフシのすべて, 56pp. トンボ出版, 大阪.
- Roth, L. M. (1967) Sexual isolation in parthenogenetic *Pycnoscelus surinamensis* and application of the name *Pycnoscelus indicus* to its bisexual relative (Dictyoptera: Blattaria: Blaberidae: Pycnoscelinae. *Annals of the Entomological Society of America*, 60: 774-779.
- Seow-Choen, F. (2016) A taxonomic guide to the stick insects of Borneo. Natural History Publications (Borneo), Kota Kinabalu, 454pp.
- Seow-Choen, F. (2017) A taxonomic guide to the stick insects of Borneo. Vol. II. Natural History Publications (Borneo), Kota Kinabalu, 261pp.
- 嶋洪・田中章・大我俊輔・上宮健吉 (1965) トカラ列島の昆虫採集報告 (1). *Satsuma* (44): 104-110.
- 屋富祖昌子・金城政勝・林正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村太編 (2002) 東清二監修, 琉球列島産昆虫目録増補改訂版, 570pp. 沖縄生物学会, 西原.
- 山下秋厚 (1981) 鹿児島県の直翅目-その分布の概要. *Satsuma* (85): 173-196.
- 山下秋厚 (2013a) 2013年4月の中之島・悪石島・宝島のバッタ目. *Satsuma* (149): 158-159.
- 山下秋厚 (2013b) トカラのゴキブリ目. *Satsuma* (149): 160.
- 山下秋厚 (2013c) トカラのハサミムシ目. *Satsuma* (149): 161-162.
- 山下秋厚 (2013d) ニセエダナナフシの飼育. *Satsuma* (150): 188-189.
- 山下秋厚・金井賢一・山根正気 (2019) 鹿児島大学理学部の野外活動で収集された直翅類. *Satsuma* (163): 57-62.
- 山崎柄根 (2008) ゴキブリ目・ナナフシ目. 平嶋義宏・森本桂監修, 新訂原色昆虫大図鑑 III. pp. 72-74, 79-81, 92-96. 北隆館, 東京.